

市の沿革と誕生の経緯

〈ご注意〉

各指標において、特に時点の注釈がないものについては、平成21年12月末日現在を基準として作成しています。

1 西東京市の沿革

西東京市は、武蔵野台地のほぼ中央にあって、東京都の西北部に位置し(北緯 35 度 43 分、東経 139 度 32 分) 東側は練馬区に、南側は武蔵野市と小金井市に、西側は小平市と東久留米市に隣接する、東西に 4.8 km、南北に 5.6 km、面積 15.85 km²の都市である。

旧青梅街道の宿場町として栄えた歴史的な経緯もあり、16 km²に満たない市域に旧青梅街道、新青梅街道、所沢街道、五日市街道がそれぞれ東西方向に走る交通の要衝となっている。また、鉄道においても、市域の北側を西武池袋線が、



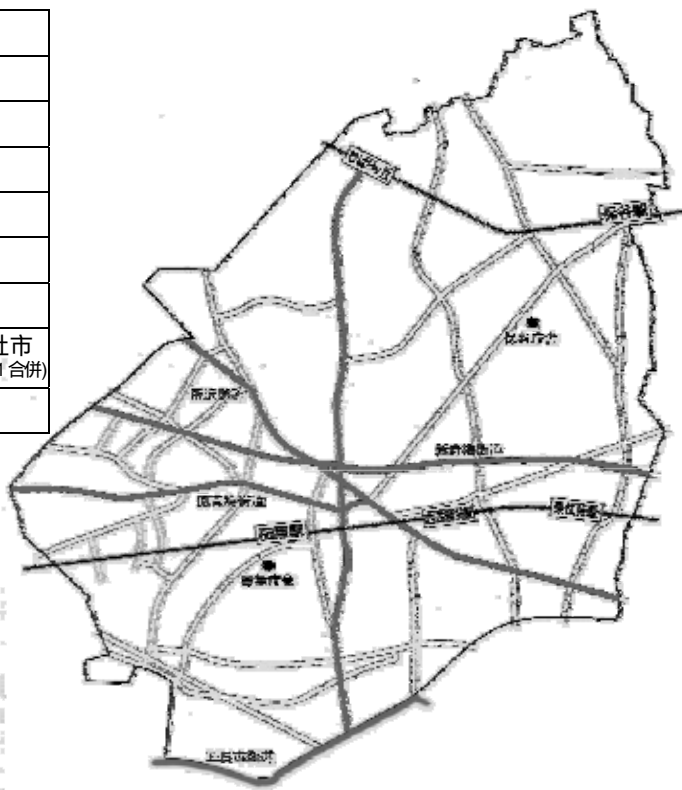
南側を西武新宿線がそれぞれ東西方向に走り、市域内に 5 つの駅を擁している。新宿あるいは池袋まで急行で 20 分を要しない至便の位置にあることから、早くから都心部のベッドタウンとして発展してきた。武蔵野の面影を色濃く残し、東京 23 区に隣接する地域としては比較的多くの緑地が存在するが、急速に宅地化が進んだため街路が入り組み、また、道幅も狭いなど、都市基盤分野における課題も残されている。今後は、これらの解消による調和のとれた発展と良好で魅力ある住環境の整備が期待されるところである。

市の概況 (平成 21 年 4 月 1 日現在)

| | | |
|------|------------------------------------|-----------|
| 人口 | 男 | 95,499 人 |
| | 女 | 98,567 人 |
| | 合計 | 194,066 人 |
| 世帯数 | 88,980 世帯 | |
| 面積 | 15.85 km ² | |
| 市制施行 | 平成 13 年 1 月 21 日 | |
| 都市形態 | 住宅都市 | |
| 姉妹都市 | 福島県下郷町・山梨県北杜市 (旧須玉町 16.11.1 合併) | |
| 友好都市 | 千葉県勝浦市 | |

産業別人口 (平成 17 年国調)

| 種別 | 人口 | 構成比 |
|---------|----------|--------|
| 第 1 次産業 | 718 人 | 0.8% |
| 第 2 次産業 | 15,106 人 | 17.2% |
| 第 3 次産業 | 69,012 人 | 78.5% |
| 分類不能 | 3,121 人 | 3.5% |
| 計 | 87,957 人 | 100.0% |



2 西東京市誕生の経緯

(1) 旧両市の地形及び歴史

【田無市の歴史】

田無は江戸時代の宿場町、そして北多摩地区の人々の生活を支える商業の拠点として栄えてきた、古い歴史を誇るまちである。昭和に入ってから、鉄道の開通、相次ぐ工場の進出などにより活気を帯び、また新宿まで西武新宿線で約 20 分と交通の便にも恵まれ、戦後は公団住宅や都営住宅、民間住宅の建設が盛んに行われてきた。都市としての条件が整った昭和 42 年 1 月 1 日に市制施行、東京都で 16 番目、全国で 563 番目の市となった。当時の人口は 52,284 人であったが、平成 13 年 1 月 21 日の新市発足時点では 77,737 人となった。

【保谷市の歴史】

明治 22 年、上保谷新田、上保谷、下保谷の 3 カ村が合併して保谷村となり、現在とほぼ同じ区画をもつ農村地域として位置付けられ、昭和 15 年 11 月 10 日に人口 15,200 人で町制を施行した。その後、日本住宅公団(現独立行政法人都市再生機構)によって、昭和 33 年には柳沢、東伏見団地、翌 34 年にはひばりが丘団地が建設されて人口が急増し、昭和 35 年 1 月 1 日には 43,678 人となった。その後も民間の宅地造成が盛んに行われ、かつて農村地域であった保谷は住宅都市へと変貌し、昭和 42 年 1 月 1 日には人口 77,169 人で市制を施行するに至った。昭和 46 年以降人口の増加は鈍化した、平成 13 年 1 月 21 日の新市発足時点では 101,962 人となった。

(2) 合併までのあゆみ(年表)

| | | | |
|----------------|---------------------------------|----------------|---|
| 平成 2 年 3 月 | 保谷市との合併について田無市長が前向き発言 | 平成 12 年 4 月 | 住民投票条例制定直接請求、両市議会で否決 (19日) |
| 平成 5 年 1 月 | 田無市との合併を公約に保谷市長当選 | 5 月 | 市民意向調査制度詳細を決定 |
| 5 月 | 両市議員 30 名により合併促進議員連盟設立 | 7 月 | 市民説明会両市内(24カ所)で開催(2~26日) 投票方式による市民意向調査実施(30日) (両市で「賛成」多数、「西東京市」が最多得票) |
| 6 月 | 保谷市議会に合併問題調査特別委員会設置 | 8 月 | 第 18 回会議において正式な合併期日と新市の名称を確認 全ての協議を終了(3日) 合併協定調印式を挙行(10日) 両市議会臨時会において両市合併関連議案を可決(11日) 東京都知事に合併申請書を提出(16日) 両市議会臨時会において合併関係補正予算を可決(22日) |
| 平成 6 年 6 月 | 田無市議会に合併検討特別委員会設置 | 10 月 | 東京都議会 9 月定例会で両市合併関連議案を可決(4日) 東京都知事が両市の廃置分合の処分決定、自治省に届け出(6日) |
| 平成 9 年 9 月 | 保谷市議会で合併協議会設置を旨とする決議可決 | 11 月 | 官報に自治省告示(第 250 号)(17日) |
| 11 月 | 田無市議会で合併協議会設置を旨とする決議可決 | 12 月 | 両市議会定例会で 町名の変更について議決、都知事へ届け出 |
| 12 月 | 両市合併協議会(任意)設立準備会設置 | | |
| 平成 10 年 2 月 | 両市合併推進協議会(任意協議会)設置(16日) | 平成 13 年 1 月 | 田無市閉市式(14日) 保谷市閉市式(18日) 新市発足・開庁式(21日) |
| 4 月 | 合併推進協議会事務局を田無市に設置 | 5 月 | 西東京市閉市式(25日) |
| 7 月 | 新市将来構想策定委員会を設置 | | |
| 平成 11 年 3 月 | 新市将来構想中間まとめ集約 | | |
| 5 月 | 新市将来構想中間まとめ市民説明会開催 | | |
| 7 月 | 新市将来構想策定 | | |
| 9 月 | 両市議会定例会で法定合併協議会設置を議決 | | |
| 10 月 | 両市合併協議会(法定協議会)を設置(11日) | | |
| 11~ | 第 2 回会議で合併目標期日を「平成 13 年 1 月」 | | |
| 12 月 | に設定 新市名を公募(11月 1 日~12月 31 日) | | |